

# ～郷土かるたで故郷発見～

材は東侯の森林から払い下げを受けていた。榎・桂・栗などが適していたよう  
で、後には落葉松の百年生から百五十年生が使われた。  
作り方は、まず舟底のそりに合う曲がった大木が選ばれて、これを二つ割り  
にしてえぐり、別の板で舟底をはぎ合わせて作るものであるが、それにはすぐれ  
た舟大工のすぐれた技術が必要であった。丸太舟は復原力が強く安定し、急旋  
回も容易で小揺れがしない。足のふんばりがきいて、投網の時も危険が少ない。  
この丸太舟は、全国的に見ても数少ない割舟であるが、用材の入手がむずかし  
くなり、いわゆる「さんば舟」に変わって来た。



## ま 丸太舟荒き波風なんのその

諏訪湖の漁舟には丸太舟と「さんば舟」があっ  
た。丸太舟は昔一本の木をくりぬいて舟としたも  
ので、これをつくるにはかなり大きな木が必要で、  
後には二つ以上の木を別にくりぬいて継いで作る  
ようになった。江戸時代は藩に願いを出して、用  
材は東侯の森林から払い下げを受けていた。榎・桂・栗などが適していたよう  
で、後には落葉松の百年生から百五十年生が使われた。



## や 矢の根石星の鼻糞黒燿石

和田峠の黒燿石は、石器時代に矢の根石の材料  
として大きな役割を果たしていた。狩猟を生業と  
していた古代人は、黒燿石の鋭利な貝殻状のかけ  
口を矢の根石とする知恵があった。黒燿石は、火  
山より噴出した岩漿が、急激に冷却されてガラス  
状になったもので、その外見から名づけられたものである。黒燿石の産地は、  
諏訪地方の和田峠・星ヶ塔などの外に、伊豆半島の天城山・箱根、九州国東半  
島など数カ所しかなく、中でも霧ヶ峰を中心とする地域は、我が国随一の主産  
地であって、矢の根石の原料として東日本の各地にひろがっていた。霧ヶ峰  
一帯の黒燿石産地をとりまいて、幾つかの無土器時代の遺跡が古代生活にと  
って重要であったと考えられる。その黒燿石の産地を地元とした諏訪の氏族が  
高い文化を築いて繁栄していったものと思われる。

### 諏訪のいろはかるた (6)

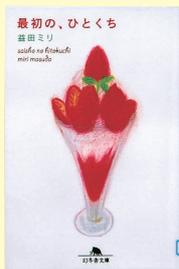
全国各地に存在する郷土かるた。多くは絶版となり現在  
では入手が困難です。ふるさとの財産「諏訪いろはかるた  
(信濃文化研究会作成)」に詠われたかるたを紹介します。



駅の玄関口でお迎え  
ようこそ下諏訪へ



### 今月のおすすめ本 ～町図書館から～



益田 ミリ 著

#### 『最初の、ひとくち』

幻冬舎文庫

30代女性に人気の、イラストレーター、漫画家、エッセイストの著者の「食べ物エッセイ集」です。幼い頃初めて出会った味から、大人になって経験したちょっと贅沢な食べ物までの記憶をたどっています。

はじめて出会った「味」には心の奥に眠っていた思いでの箱がふんわり開くと益田さんは言っています。あなたもありふれた日常の中にある食べ物の記憶を辿って、隠れた「最初のひとくち」を思い出してみませんか？ (平出 みちよ)



マルヨライン・ホフ 著  
野坂 悦子 訳

#### 『小さな可能性』

小学館

オランダに住むキークのパパはお医者さん。たくさんの人を助けようと戦争をしている国で働いています。危険な場所で仕事をするパパが、ちゃんと家に帰れるのか、キークは心配でしかたありません。そのうえパパと連絡がとれなくなってしまったキークは「パパが無事に帰ってくる可能性をできるだけ大きくしよう！」と考え始めます。でも可能性って大きくしたり、小さくしたりできるのでしょうか…？ 不安な気持ちを乗り越え、家族を大切に思いやる少女キークのお話しです。(浜 智栄子)



11月の暦 御諏訪太鼓  
増沢 昭一 作